

## 消化器・一般外科学

著書

なし

学術論文

- 1 ) Eiji Hira, Takashi Ono, Dipok Kumar Dhar, Osama N. El-Assal, Yoshitaka Hishikawa, Akira Yamanoi, Naofumi Nagasue. Overexpression of macrophage migration inhibitory factor induces angiogenesis and deteriorates prognosis after radical resection for hepatocellular carcinoma. *Cancer* 103:588-598, 2005
- 2 ) Maeno H, Ono T, Dhar DK, Sato T, Yamanoi A, Nagasue N. Expression of hypoxia inducible factor-1 $\alpha$  during liver regeneration induced by partial hepatectomy in rats. *Liver International* 25:1002-1009, 2005
- 3 ) Dipok Kumar Dhar, Timothy C. Wang, Hideki Tabara, Yasuhito Tonomoto, Riruke Maruyama, Mitsuo Tachibana, Hirohumi Kubota, Naofumi Nagasue. Expression of trefoil factor family members correlates with patient prognosis and neoangiogenesis. *Human Cancer Biology* 11:6472-6478, 2005
- 4 ) 伊藤真理子、山口峰一、門馬浩行、田原英樹、吉村寛志、立花光夫、永末直文. 腸重積を呈し、小腸ポリープに悪性像を認めた Peutz-Jeghers 症候群の 1 例. *島根医学* 25:55-59, 2005

学会発表

- 1 ) Takeshi Matsubara, Takashi Ono, Akira Yamanoi, Minekazu Yamaguchi, Satoshi Nagai, Toshinao Onoda, Yoshio Yamamoto, Kiyoe Takai, Naofumi Nagasue. Ezrin overexpression induces portal invasion and correlates with poor prognosis of hepatocellular carcinoma. *Hepatocellular Carcinoma EASL-AASLD-JSH ONOTHEMATIC CONFERENCE*. Barcelona, Spain, 2005 年 6 月
- 2 ) Takashi Ono, Akira Yamanoi, Minekazu Yamaguchi, Hiroshi Maeno, Satoshi Nagai, Toshinao Onoda, Yoshio Yamamoto, Tetsu Yamamoto, Tsuyoshi Matsubara, Kiyoe Takai, Naofumi Nagasue. Risk of ablation for resectable hepatocellular carcinoma based on relations between tumor size and invasiveness. *Hepatocellular Carcinoma EASL-AASLD-JSH ONOTHEMATIC CONFERENCE*, Barcelona, Spain, 2005 年 6 月
- 3 ) Tetsu Yamamoto, Akira Yamanoi, Takashi Ono, Minekazu Yamaguchi, Hiroshi Maeno, Seiji Maruyama, Satoshi Nagai, Toshinao Onoda, Yoshio Yamamoto, Naofumi Nagasue. Prognostic significance of high mobility group box 1 expression in hepatocellular carcinoma. *Hepatocellular Carcinoma EASL-AASLD-JSH ONOTHEMATIC CONFERENCE*. Barcelona, Spain, 2005 年 6 月
- 4 ) 山本 徹、山野井彰、小野隆司、山口峰一、前野 博、丸山晴司、永井 聡、小野田敏尚、山本佳生、松原 毅、高井清江、永末直文. ラット肝虚血再灌流障害モデルにおける HMGB1 動態の検討. 第 41 回日本肝臓学会総会、2005 年 6 月

- 5 ) 小野隆司、山野井彰、山口峰一、前野 博、丸山晴司、永井 聡、小野田敏尚、山本佳生、山本 徹、松原 毅、高井清江、永末直文. 当科における巨大肝細胞癌の切除成績. 第 41 回日本肝臓学会総会、2005 年 6 月.
- 6 ) 丸山晴司、山野井彰、小野隆司、前野 博、永井 聡、小野田敏尚、山本 徹、山本佳生、高井清江、松原 毅、永末直文. 当科における黄疸を呈した肝細胞癌 17 例の検討：原因別分類とその予後. 第 41 回日本肝臓学会総会、2005 年 6 月.
- 7 ) 立花光夫. 食道癌に対する En bloc 食道切除と 3 領域リンパ節郭清による個別的治療. 第 59 回日本食道学会学術集会、東京、2005 年 6 月
- 8 ) 吉村寛志、柴北宗顕、上田修平、田原英樹、ダハール ディポック、殿元康仁、服部晋司、百留亮治、金川 勉、立花光夫、永末直文. 直腸癌局所切除例の検討. 第 63 回大腸癌研究会、東京、2005 年 7 月
- 9 ) 山本 徹、山野井彰、小野隆司、丸山晴司、永井 聡、小野田敏尚、山本佳生、松原 毅、高井清江、永末直文. 肝内胆管癌の high mobility group box 1(HMGB1)発現に関する臨床病理学的検討. 第 60 回日本消化器外科学会定期学術総会、東京、2005 年 7 月
- 1 0 ) 小野隆司、山野井彰、丸山晴司、永井 聡、小野田敏尚、山本佳生、山本 徹、松原 毅、高井清江、永末直文. 腫瘍径を中心にした肝細胞癌に対する治療選択の危険性：腫瘍径と門脈浸潤・肝内転移の関係. 第 60 回日本消化器外科学会定期学術総会、東京、2005 年 7 月
- 1 1 ) 高井清江、山野井彰、小野隆司、丸山晴司、永井 聡、小野田敏尚、永末直文. 肝細胞癌の遠隔転移に対する全身化学療法の実験. 第 60 回日本消化器外科学会定期学術総会、東京、2005 年 7 月
- 1 2 ) 立花光夫、吉村寛志、田原英樹、柴北宗顕、上田修平、Dipok Dhar、殿元康仁、服部晋司、永末直文. 食道癌に対する En bloc 食道切除と 3 領域リンパ節郭清による個別的治療. 第 60 回日本消化器外科学会定期学術総会、東京、2005 年 7 月
- 1 3 ) 久守孝司、金川 勉、立花光夫、永末直文、岸 和子、瀬島 斉. Roux-Y 空腸瘻から経腸栄養を開始した一例. 第 44 回日本小児外科学会中国四国地方会、松山、2005 年 9 月
- 1 4 ) 小野隆司、山野井彰、永末直文. 肝細胞癌根治切除症例における門脈圧亢進症に対する外科治療の功罪. 第 47 回日本消化器病学会大会 Digestive Disease Week-Japan 2005 ( 第 13 回日本消化器関連学会週間 )、神戸、2005 年 10 月
- 1 5 ) 久守孝司、金川 勉、立花光夫. 小児に対する腸管を利用した代用膀胱造設・膀胱拡大術の実験. 第 116 回山陰外科集談会、出雲、2005 年 12 月
- 1 6 ) 山本 徹、山野井彰、小野隆司、山口峰一、大森治樹、山本佳生、松原 毅、高井清江、百留美樹、立花光夫. ラット肝虚血再灌流障害モデルにおける吸着カラムを用いた HMGB1 除去療法の検討. 第 10 回エンドトキシン血症救命治療研究会、福岡、2006 年 2 月
- 1 7 ) 松原 毅、山野井彰、小野隆司、佐藤 崇、山本佳生、山本 徹、高井清江、百留美樹、立花光夫、永末直文. 十二指腸 Fractalkine 発現の臨床的評価. 第 106 回日本外科学会定期学術集会、東京、2006 年

3月

- 18) 山本佳生、小野隆司、山野井彰、佐藤 崇、永井 聡、小野田敏尚、山本 徹、松原 毅、高井清江、立花光夫、永末直文.Peroxisome Proliferator-activated Receptor gamma(PPARgamma)はラット肝部分切除後肝再生を制御する. 第106回日本外科学会定期学術集会、東京,2006年3月